

◆ 今週のコメント

- ・ A型肝炎の報告が1例あります。推定感染経路は経口感染で、推定感染地域は国内です。本年の4例の推定感染地域の内訳は、カザフスタン1例、国内3例です。
- ・ 麻しんの報告が、1例(男20歳)あり、4月、5月、8月に続いて、本年4例目となっています。4例の内訳は、19歳、24歳、2歳、20歳で、臨床診断2例、検査診断2例です。

◆ 今週のトピックス: <インフルエンザ>

インフルエンザの定点当たり報告数は24.26(1650例)、全国は32.76で、先週に比べやや減少しているものの、ともに第44週に流行発生警報の開始基準値(30.0)を超えたのち、継続基準値(10.0)以上を満たしているため、警報は継続中です。

なお、急性脳炎の報告が、第40週(男7歳)に引き続き1例(男4歳)あります。本年の累積報告数は5例で、すべてインフルエンザウイルスによるものです。詳細はトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数報告の感染症

- ・ 二類: 結核 1例(肺結核 1例, 肺外結核 なし, 無症状病原体保有者 なし), (喀痰塗抹陽性 1例)
【1月以降の累積報告数 341例(肺結核 218例, 肺外結核 82例, 無症状病原体保有者 41例), (喀痰塗抹陽性 106例)】
- ・ 四類: A型肝炎 1例(第43週追加分)【1月以降の累積報告数 4例】
- ・ 五類: 急性脳炎 1例(第44週追加分)【1月以降の累積報告数 5例】
- ・ 五類: 麻しん 1例(第39週追加分)【1月以降の累積報告数 3例】

定点報告の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	24.26	1650
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	1.98	81
	② 水痘	0.61	25
	③ 突発性発しん	0.32	13
	④ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.24	10
	④ 流行性耳下腺炎	0.24	10
眼科	流行性角結膜炎	0.20	2

病原体情報

(検体名は、紙面の都合上、鼻咽頭ぬぐい液をNP、糞便をFC、髄液をSF、尿をURと略す。)

検出病原体 (報告数)	臨床診断名(採取週)	検体名	検出病原体 (報告数)	臨床診断名(採取週)	検体名
コクサッキーウイルスA4型 (1)	ヘルパンギーナ(第38週)	FC, NP	黄色ブドウ球菌(1)	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(第39週)	NP
コクサッキーウイルスA6型 (1)	かぜ症候群(第35週)	NP	A群溶血性レンサ球菌 (1)	かぜ症候群(第39週)	NP
コクサッキーウイルスA9型 (2)	かぜ症候群(第37週, 第40週)	NP×2	肺炎球菌(3)	RSウイルス感染症(第40週) かぜ症候群(第38週, 第40週)	NP×3
インフルエンザウイルスAH 3型(1)	インフルエンザ(第34週)	NP	インフルエンザ菌b 型以外(1)	かぜ症候群(第38週)	NP
アデノウイルス2型(1)	かぜ症候群(第38週)	NP			

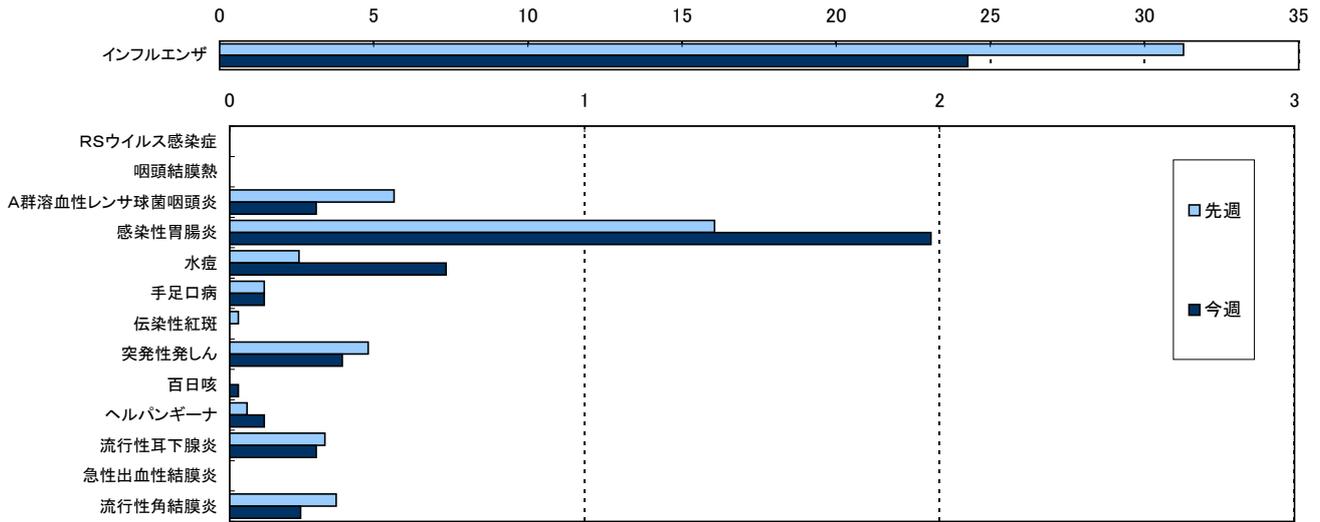
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <インフルエンザ>

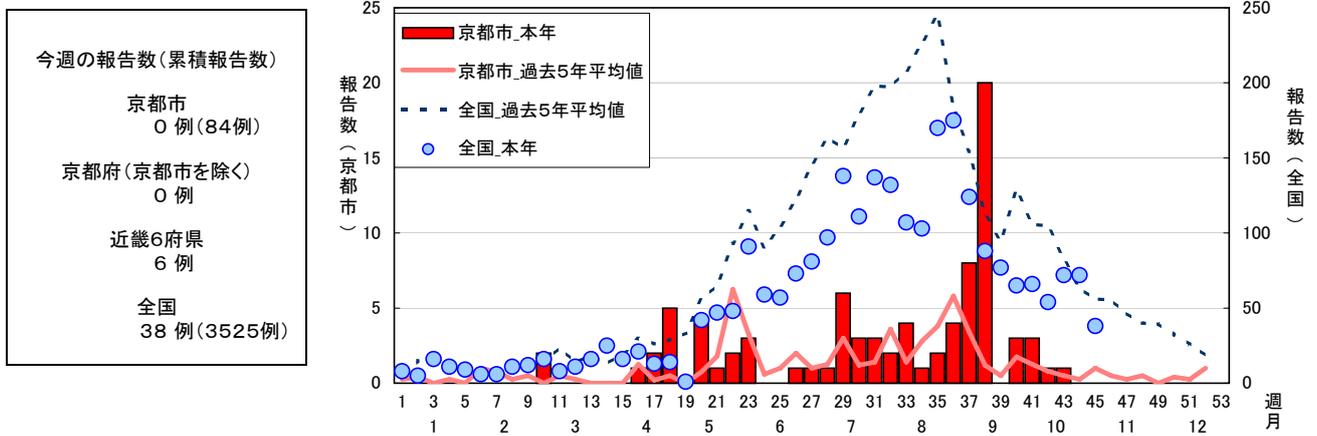
(注) 京都市のデータは、平成21年11月12日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在の保健所での集計で、患者の住所を示すものではありません。
病原体情報は、病原体定点等から京都市衛生公害研究所へ搬入された検体から検出された病原体です。

◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第45週)と先週(第44週)の定点当たり報告数の比較



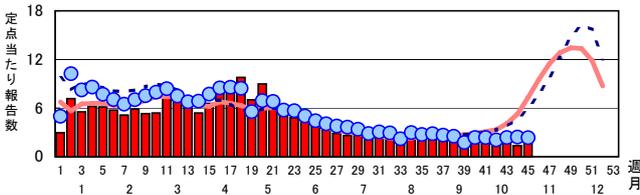
2 腸管出血性大腸菌感染症(三類感染症)の推移



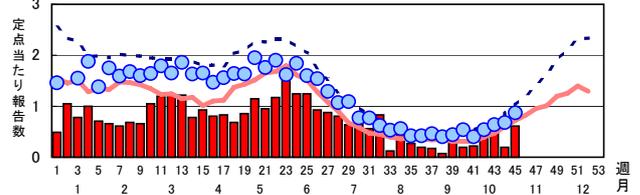
3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>

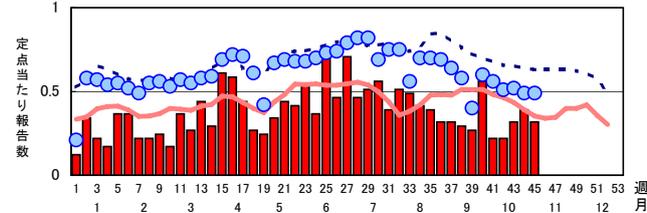
1 感染性胃腸炎



2 水痘

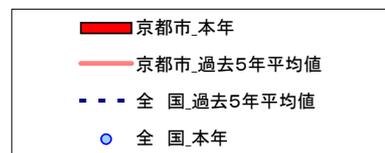
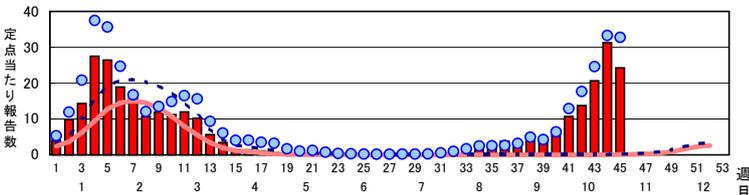


3 突発性発しん



<インフルエンザ定点>

インフルエンザ



第45週(11月2日～11月8日)トピックス: <インフルエンザ>

インフルエンザの定点当たり報告数は24.26(1650例), 全国は32.76で, 先週に比べやや減少しているものの, とともに第44週に流行発生警報の開始基準値(30.0)を超えたのち, 継続基準値(10.0)以上を満たしているため, 警報は継続中です。

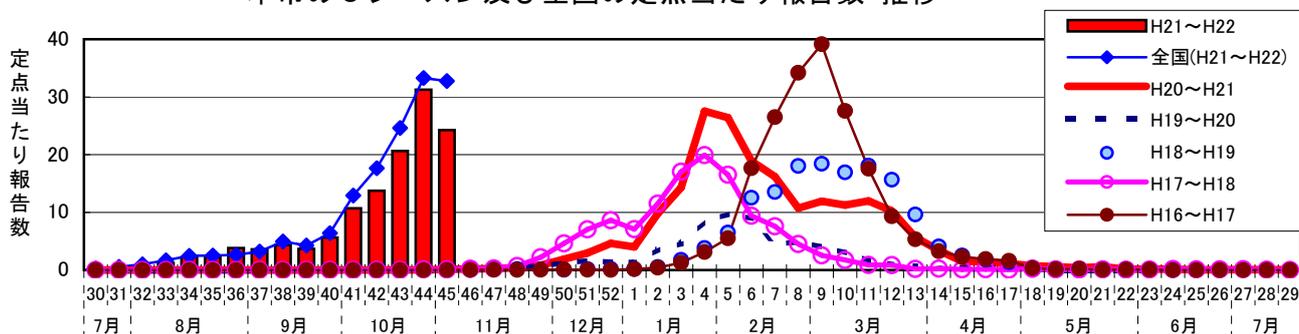
年齢群別構成割合では, 「5～9歳」, 「10～14歳」の順に割合が高くなっており, 「0～4歳」, 「20歳以上」の割合が増加しています。

新型インフルエンザによる死亡例は, 市内では, 11月1日(30歳, 女)と11月8日(1歳, 男)の2例となっています。全国では, 累積報告数(8月15日～11月12日まで)が61例で, 年齢群別にみると, 「60歳以上」で特に多く, 次いで「0～4歳」, 「5～9歳」の順に多くなっています。

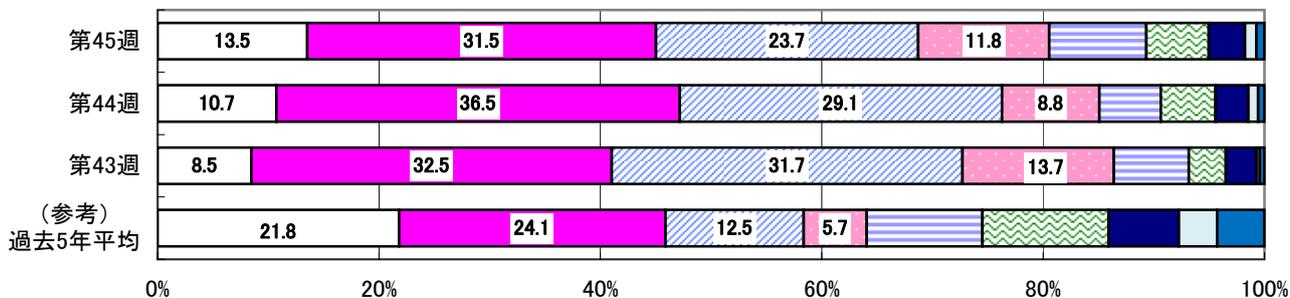
なお, 急性脳炎の報告が, 第40週(男7歳)に引き続き1例(男4歳)あります。本年の累積報告数は5例で, すべてインフルエンザウイルスによるものです。

第45週に京都市衛生公害研究所でPCR検査を実施した28例のうち, 26例からA型インフルエンザウイルスが検出され, そのすべてがAH1pdm(新型)でした(2例は陰性)。

本市の6シーズン及び全国の定点当たり報告数 推移



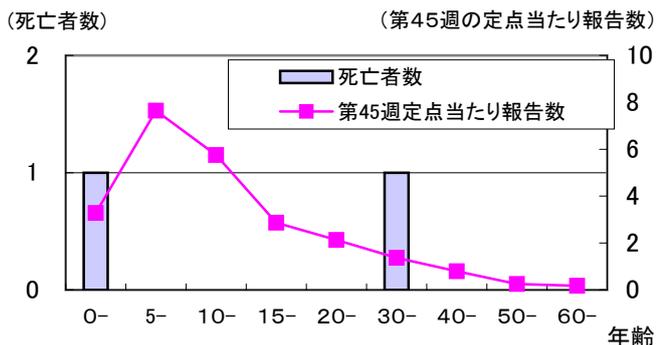
年齢群別構成割合の推移



□0～4歳 ■5～9歳 □10～14歳 ■15～19歳 □20～29歳 ■30～39歳 ■40～49歳 □50～59歳 ■60歳以上

京都市の死亡者数

(n=2, 8月15日から11月12日までの累積数)



全国の死亡者数

(n=61, 8月15日から11月12日までの累積数)

